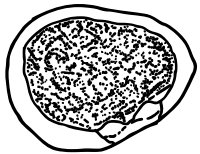
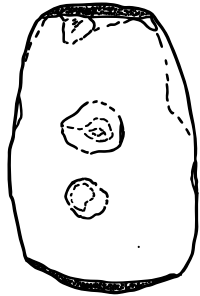
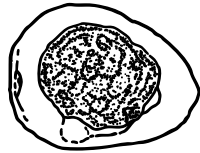


舟 木 遺 跡 3

(A・K地区の調査)



2026. 3

淡路市教育委員会

舟 木 遺 跡 3

(A・K地区の調査)

2026. 3

淡路市教育委員会



1 遺跡上空から播磨灘を望む



2 遺跡上空から大阪湾を望む



1 SK-2103 (真上から)



2 SH-2001の炉跡と床面の炭化材



1 SF-2101



2 SF-2101断面

巻首図版4 土器と石器



1 赤い土器と茶色の土器



2 黒い石器

例 言

- 1、本書は、令和2（2020）～4（2022）年度に淡路市教育委員会が実施した国庫補助埋蔵文化財緊急発掘調査事業舟木遺跡発掘調査の報告書である。本書では、それ以前に実施した既往調査の内、本報告に関係する調査成果を掲載している。
- 2、遺跡は、兵庫県淡路市舟木字棚原32番1ほかに所在する。
- 3、各年度の調査体制及び調査担当者については、本書第Ⅰ章に記した。
- 4、本書の編集は、淡路市教育委員会の新田妃三光・伊藤宏幸が担当し、執筆者については目次に記した。
- 5、本書で使用した方位・座標は平面直角座標第Ⅴ系（世界測地系）を基準として表記した。また、使用した標高は、東京湾平均海水準（T.P.）を基準とした海拔高を表し、方位は座標北を示している。
- 6、各調査区の表記は、調査時に付した調査区番号に調査年度を西暦で表わした下2桁の数字を冠した表記に整理している。例）2020年度調査のNo.1 トレンチ → Tr-2001
- 7、検出遺構は、種類ごとにアルファベット2文字を冠する4桁のアラビア数字を組み合わせた番号で表記した。冠するアルファベットは、掘立柱建物（SB）、溝（SD）、炉・焼土面（SF）、竪穴建物（SH）、土坑（SK）、ピット・柱穴（SP）、落ち込み・段状遺構など（SX）とし、それに続くアラビア数字の上2桁は調査年次の西暦の下2桁を表している。
- 8、出土遺物は、種別を表す大文字のアルファベット1文字と6桁のアラビア数字を組み合わせた番号を付した。冠するアルファベットは、種別毎に、弥生土器（Y）、石器（S）、鉄器（M）と定めた。本書では、遺物観察表にこの遺物番号を併記した。
- 9、鉄器の分析及び処理については、愛媛大学アジア古代産業考古学研究センターに委託し、同大学教授の村上恭通氏の全面的な指導を受けた。鉄器に関する所見は村上恭通氏に評価いただき、原稿執筆を依頼した。鉄器の実測図は、同大学考古学研究室の鄭宗鎬氏が作成した。
- 10、石器の石材については、兵庫県立人と自然の博物館研究員の加藤茂弘氏、生野賢司氏の指導を受けた。
- 11、巻首図版1及び写真図版1-1、図2-2で使用した遺跡上空からの写真は、（公財）兵庫県まちづくり技術センターの協力により、令和3（2021）年に撮影したものを使用した。
- 12、炭化材等の自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社へ委託した。
- 13、調査成果については、舟木遺跡調査成果検討会を設置し、検討評価を行った。検討会の構成、及び開催状況は第Ⅰ章に記した。
- 14、遺構の実測及び写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は伊藤宏幸が行ったが、鉄器の写真は、愛媛大学アジア古代産業考古学研究センターで撮影したものを使用した。
- 15、調査に際しては、舟木町内会及び地権者の方々に多大なる協力をいただいた。
- 16、調査の記録及び出土遺物については、淡路市教育委員会にて保管している。